

ガラスびんに関する自主行動計画の2011年度フォローアップ結果

ガラスびんリサイクル促進協議会

【リデュース】

2015年度目標	2011年度取り組み実績
1 本当たりの平均重量を基準年(2004年)対比で2.8%の軽量化を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年実績として、基準年(2004年)対比で1本当たり2.0%の軽量化がはかられた。 1本当たりの単純平均重量は基準年(2004年)の192.3gに対し、178.9gで7.0%(13.4g/本)の軽量化がはかられたが、これには容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は2.0%(3.8g/本)となった。 ・なお、2011年の単年度で新たに軽量化された商品は、8品種19品目であり、軽量化重量は862トンであった。

【リユース】

2015年度目標	2011年度取り組み実績
市場別に課題を明確化し、関係主体の協力のもと、リユース(リターナブル)商品のPRや実証事業の実施に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型びんリユースシステム再構築に向けた調整と取り組み準備をおこない、2011年9月に「びんリユース推進全国協議会」を立上げ、新たな推進体制の構築をはかった。 ・環境省の「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」に参画すると共に、びんリユース実証事業の推進に取り組んだ。 ・関係他団体(日本酒造組合中央会、1.8L壺再利用事業者協議会)と連携したびんのリユース推進事業の取り組みをおこなった。

【リサイクル】

2015年度目標	2011年度取り組み実績
[リサイクル率] リサイクル率70%以上を目指す。 [カレット利用率] カレット利用率97%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・「リサイクル率」の2011年実績は69.6%となった。基準年(2004年)対比では+10.3%と向上した。 ・「化粧品びん」の分別収集促進については、日本容器包装リサイクル協会と連携の上、未分別収集自治体への個別アプローチをおこない、2012年3月現在50.6%の自治体での分別収集へと拡大した。 ・目標として設定した「カレット利用率」の2011年実績は95.7%となった。 ・原料としてカレットを90%以上使用したエコロジーボトルの2011年出荷実績は127百万本であり、基準年(2004年)対比131.1%と拡大した。

【広報・啓発活動】

2015年度目標	2011年度取り組み実績
ガラスびんの「3R」の取り組みや「びん to びん」リサイクルの有効性について、消費者への積極的な広報活動をおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラスびん3R推進事例として、ガラスびん軽量化商品をWEBサイトに掲載し情報発信をおこなった。 ・WEBサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、びんリユースに関する各地域での取り組みを紹介するとともに情報発信をおこなった。 ・新たに「びん to びん」ポスターを新規制作し、自治体リサイクルプラザほかに配布をおこなった。 ・「エコプロダクツ2011」に加え、新宿区3Rイベントほかに参加しガラスびんの3Rについて直接広報活動を実施した。

【リデュース】（軽量化・薄肉化）

①一本当たりの重量変化

2011年実績として、基準年（2004年）対比で1本当たり2.0%の軽量化がはかられた。

1本当たりの単純平均重量は基準年（2004年）の192.3gに対し、2011年実績は178.9gと7.0%（13.4g/本）の軽量化がはかられたが、これにはびん容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は2.0%（3.8g/本）となった。【表1】

残りの5.0%（9.6g/本）はびん容量構成比の変化によるものである。

なお、基準年（2004年）対比での軽量化による資源節約量は、2006年～2011年（6年間）で、117,343トン（100mlドリンク剤びん換算 9億7786万本）となった。

【表1】1本当たりの平均重量推移

	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
本数（千本）	7,262,950	7,158,306	7,049,797	6,846,912	6,653,700	6,771,964	6,875,461
重量（トン）	1,396,582	1,343,925	1,313,830	1,266,242	1,213,075	1,222,525	1,230,174
単純平均重量 （g/本）	192.3	187.7	186.4	184.9	182.3	180.5	178.9
ネット軽量化率指標 （加重平均）	100.0	99.0	98.7	98.6	98.2	98.3	98.0
軽量化による 資源節約量(トン)	—	13,575	17,305	17,979	22,236	21,142	25,106

②軽量化実績

2011年に新たに軽量化された商品は、8品種19品目であり、軽量化重量は862トンであった。

2006年から2011年までに軽量化された商品は、11品種147品目となった。【表2】

なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表2】2006年から2011年までに軽量化された品目

品 種	のべ品目数
小びんドリンク	小びんドリンク（4品目）
薬びん	細口びん（2品目）、広口びん（1品目）
食料品びん	コーヒー（17品目）、ジャム（6品目）、粉末クリーム（2品目）、食用油（2品目）、蜂蜜（1品目）
調味料びん	たれ（7品目）、酢（11品目）、ソース（2品目）、新みりん（2品目）、つゆ（6品目）、調味料（9品目）、ケッチャップ（1品目）、醤油（2品目）
牛乳びん	牛乳（5品目）
清酒びん	清酒中小びん（20品目）
ビールびん	ビール（2品目）
ウイスキーびん	ウイスキー（4品目）
焼酎びん	焼酎（13品目）
その他洋雑酒びん	ワイン（16品目）、その他（1品目）
飲料びん	飲料ドリンク（3品目）、飲料・サイダー（4品目）、ジュース（4品目）

【リユース】（リターナブルびんの普及）

① リターナブルびんのPRやモデル事業の実施

・2011年度は環境省の「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」に参画すると共に、自治体や事業者等の関係者が連携し、地域内でびんリユースを促進する実証事業に取り組んだ。

＜2011年度のびんリユース実証事業＞

(1)九州硝子壺商業組合内Rびん推進九州プロジェクト (2)「十万馬力新宿サイダー」の開発パートナー事業 (3)郡山市容器リユースモデル実証事業 (4)丸正 900ml びんのリユースシステム構築事業

・また、2009年2月に立上げたWEBサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、全国各地展開されるびんリユースの取組みの紹介をおこない、リユース推進活動の「見える化」と情報発信に努めた。

② リターナブルびんの使用量実績

・リターナブルびんの使用量については、経年的な減少傾向に歯止めがかからず、現在では家庭用宅配と業務用という一部限定市場での存続という状態であり、2011年使用量実績は112万トン（基準年比61.2%）となった。【表3】

・びんのリターナブル比率（リターナブルびん使用量÷（国内ワンウェイびん流通量+リターナブルびん使用量））は2009年から50.0%を割る結果となった。

【表3】リターナブルびんの使用量実績（単位：万トン）

	2004年 基準年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2011年実績 基準年比
リターナブルびん使用量	183	159	153	144	133	125	112	61.2%
国内ワンウェイびん量 （輸出入調整後）	158	146	141	139	140	143	140	88.6%
リターナブル比率～%	53.7	52.1	52.0	50.9	48.7	46.6	44.4	—

③ リターナブルびん存続に向けた取組み

・地域や市場特性に合わせた取組みを強化すべく、消費者・自治体・流通/販売事業者やびん商等関係主体の一層の連携を進め、地域型びんリユースシステム再構築に向けた取組み準備をおこなった。新たな推進体制として2011年9月に「びんリユース推進全国協議会」を立上げ、推進体制を強化し、びんリユースシステムの強化に取り組んだ。

【リサイクル】（リサイクル率の向上）

① リサイクル率の推移

・「リサイクル率」は毎年向上し、2011年では69.6%となり、基準年（2004年）対比では、+10.3%となった。【表4】 これは、びん分別収集の推進による成果であるが、空きびん収集段階で細かく割れたガラスびん残渣の資源化が課題となっている。

【表4】 リサイクル率の推移

	2004年 基準年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
リサイクル率(回収・再資源化率)	59.3%	60.4%	63.9%	65.0%	68.0%	67.1%	69.6%

・自治体によるガラスびんの人口1人当たり分別収集量を集計し、7月20日記者説明会で報告し、広報実施。同時に、1人当たり収集量の少ない自治体への個別アプローチを開始した。

・「化粧品びん」の分別収集促進活動については、日本容器包装リサイクル協会と連携し全国の自治体に行い、2012年3月現在50.6%の自治体が化粧品びん分別収集を実施・計画中となった。

② カレット利用率の推移

・「カレット利用率」については、2011年実績では95.7%となり、基準年（2004年）対比では、+5.0%となった。【表5】 （カレット利用率とは、ガラスびん生産量に占めるカレット（再生材）の使用比率）

【表5】 カレット利用率の推移

	2004年 基準年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
ガラスびん生産量（千トン）①	1,554	1,472	1,433	1,386	1,330	1,337	1,342
カレット利用量（千トン）②	1,409	1,382	1,368	1,343	1,297	1,295	1,284
カレット利用率（%）②÷①	90.7	93.9	95.5	96.9	97.5	96.8	95.7

「ガラスびん生産量」：経済産業省「窯業・建材統計」

「カレット使用量」：日本ガラスびん協会資料及びガラスびんフォーラム資料

・再商品化市場の開発拡大を目的とした「カレットを90%以上使用するエコロジーボトル」の普及に努め、2011年出荷量は127百万本と基準年（2004年）対比131.1%と拡大した。

【広報活動】

- ・ガラスびんの3R総合パンフレットとして「ガラスびんBOOK」を制作・配布し、容器排出方法については「ガラスびんの流れ（リユースとリサイクル）」ポスターと「あきびん以外のものを混ぜない!」リーフレットを制作・配布し、広報に努めた。
- ・WEBサイトでのガラスびん3R推進事例「ガラスびん軽量化商品」及び自治体関係コーナーでの「自治体ガラスびん分別収集好事例」を追加掲載し、情報発信力強化をはかった。
- ・小中学生を対象とした「ガラスびんポスターコンクール」を実施し、次世代に対する環境教育の観点から取組みの強化をはかった。
- ・「エコプロダクツ」への出展に加え、東京パック、新宿区3Rイベントほかに参加し、ガラスびんの3Rについての直接広報活動を実施した。